

# シェアード・プリント

筑波大学附属図書館副館長

加藤信哉

skato@tulips.tsukuba.ac.jp

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

1

## 概要

- 定義
- 冊子体資料の共同管理の理由
- 米国大学図書館における資料の保存管理の流れ
- シェアード・プリントの事例
- 審議まとめ
- 導入に当たって留意すべき事項

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

2

## 定義

### •シェアード・プリント [Shared print]

図書館が所蔵する冊子体(紙媒体)の図書や雑誌を、複数の図書館が共同で保存・管理すること。方法としては、各図書館がそれぞれ担当する資料を決め、それを各図書館で責任を持って保存する「分散型」と、各図書館が共同で使える書庫を用意し、対象となる資料をその書庫へ移送して保存する「集中型」がある。

出典: [学修環境充実のための学術情報基盤の整備について\(審議まとめ\)](#) 2013. p.11

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

3

## 冊子体資料の共同管理の理由 (1)

- 情報資源の電子化が進んでいる
- 書架にある資料が利用されていない
- すでにかんりの量の紙の資料が既存の保存書庫に分担収集され、紙の資料を独自に保存しなければならない図書館が非常に少なくなっている
- 大量デジタル化プロジェクトによって保存の選択肢が広がり、アクセス方法の選択肢も増大した

出典: Michalko, James. 紙媒体資料の共同管理の緊急性. 大学図書館研究. 96, 2012, p.6

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

4

## 冊子体資料の共同管理の理由 (2)

- 教員は[情報資源への]リモートアクセスをますます好むようになっている
- 学習・研究用にスペースをより有効に活用できる
- 図書館の価値は本やコレクションではなくサービス中心に確立してゆくべきである

出典: Michalko, James. 紙媒体資料の共同管理の緊急性. 大学図書館研究. 96, 2012, p.6

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

5

## 米国の大学図書館における資料の保存・管理の流れ

年代	課題	対応
1980年代	大学図書館スペースの狭隘化	書架の増設 キャンパス内外での新たな書庫(高密度ストレージ)の建設 自動化書庫の導入
1990年代	単独書庫の必要性についての大学内の疑問や大学予算の削減	複数機関が書庫スペースを共有する共同書庫(デポジトリ)の誕生
2000年代	地域や国レベルでの紙の資料の確実な保存・継承の検討	複数機関の共同コレクション管理としてのシェアード・プリントへの動き

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

6

## 共同保存書庫とシェアード・プリントの比較

事項	共同保存書庫	シェアード・プリント
所蔵資料のロケーション	保存施設	図書館と保存施設
デポジットや保管の選択	・単独機関による決定 ・1機関の目標を満たせばよい	・グループによる決定 ・複数機関のニーズを満たす必要がある
デポジットや保管の方法	早もの勝ち、重複なし	年間の保存サイクル
保存期間	無期限、除却なし	指定期間(例:10年, 25年)
所有権	・デポジットした機関 ・返還(リコール)が認められている	・合意書に言及なし ・アーカイブの所有者に移管
参加機関の便益	デポジットのペースは個別に決定される	図書館スペースの再利用のペースが保障される
施設の運用上の便益	1対1の関係	複数対複数の関係

出典: Stambaugh, Emily. *Shared Print in Action, Frameworks and Futures*. [Shared Print Forum 2014](#).

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

7

## シェアード・プリント: 米国(1)

名称	参加機関	対象資料	保存期間	所有者
<a href="#">ASERL Cooperative Journal Retention Program</a> [分散]	25機関	雑誌: 2,379タイトル	一定期間	元の所有者
CIC Shared Print Repository[集中]	15大学	Elsevier, Springer, Wileyの雑誌	25年間	元の所有者
<a href="#">Five College Library Depository Program</a> [集中]	5大学	図書 雑誌	永久	プログラム/コンソーシアムへの移管
OhioLink Book Depository Program[分散]	オハイオ州の5 図書デポジット	図書 雑誌	未詳	元の所有者

出典: [Print Archives Preservation Registry](#). <http://papr.crl.edu/>

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

8

## シェアード・プリント：米国（2）

名称	参加機関	対象資料	保存期間	所有者
Triangle Research Libraries Network Collaborative Print Retention (TRIN)[分散]	4大学 (Duke, North Carolina Central, North Carolina State, North Carolina at Chapel Hill)	図書 雑誌	永久	元の所有者
University of California Shared Print (CDL)[集中]	10校	図書 雑誌: 2,456タイトル	一定期間	プログラム／コンソーシアムへの移管
Western Regional Storage Trust (WEST)[分散]	米国西部の18州から119図書館	雑誌: 10,973タイトル	未詳	元の所有者

出典: [Print Archives Preservation Registry](http://papr.crl.edu/). <http://papr.crl.edu/>  
 コアスタッフ勉強会after連絡会

2014/4/22

9

## ASER(Association of Southeastern Research Libraries)

事 項	概 要
名称	<a href="#">ASERL Collaborative Journal Retention Program Agreement</a>
参加機関	25大学
運用開始	2013年
施設・設備	・参加機関が自らの図書館内や書庫内で指定された雑誌を保存
移管可能資料	・雑誌8,000タイトル, 25万冊
所有権	各参加図書館
経費	各参加図書館
管理	オンラインカタログ: 保存状態 ウェブサイトのリスト: 対象巻号, 保存状態, 貸出条件, 施設等
期間	2035年12月31日まで
効果	自館の重複資料を除却することが可能

出典: [村西明日香](#). 動向レビュー: 北米における冊子体資料の共同管理の動向. カレントアウェアネス No.319, 2014, p.29

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

10

## FCLC(Five College Library Consortium)

事 項	概 要
名称	<a href="#">Five College Library Depository</a>
参加機関	マサチューセッツ大学アマースト校, アマースト大学, スミス大学, マウントホリヨーク大学, ハンプシャー大学
運用開始	1999年
施設・設備	・アマースト大学所有の書庫の借用 ・55万冊収容の移動式書架
移管可能資料	・[利用頻度の低い]図書, 雑誌, 公文書 ・書庫内重複は認めない ・貴重書, 虫食いのある資料, 劣化の進んだ資料は移管できない
所有権	マサチューセッツ大学アマースト校から移管された資料を除き, 5大学図書館長会議(Five College Librarians Council)が保有
経費	5大学分担
利用	来館利用/ILL(学術雑誌は文献複写のみ, 図書, 一般雑誌は貸借可)

出典: [村西明日香. 動向レビュー: 北米における冊子体資料の共同管理の動向. カレントアウェアネス No.319, 2014, p.29](#)

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

11

## 事例: その他

- カナダ  
[Shared Print Archive Network](#) [雑誌]
- 英国  
[UKRR \(UK Research Reserve\)](#) [雑誌]
- 香港  
[JURA \(Joint University Research Archive\)](#) [図書・雑誌]
- オーストラリア  
CARM (CAVAL Archival and Research Materials Centre) [図書・雑誌]

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

12

## 審議まとめ(1)

○大学の状況に応じて、学術資料のより効果的・効率的な保存方法の導入を検討し、図書館における空間の有効活用を推進することが考えられる。

① 紙媒体資料について電子的保存・流通への対応と合わせて、各資料を紙媒体で維持・提供することの必要性についての検討を行う。

出典：[学修環境充実のための学術情報基盤の整備について\(審議まとめ\)](#) 2013. p.6

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

13

## 審議まとめ(2)

② 蔵書を集約化する自動書庫の導入や大学単独もしくは共同で遠隔地に保存書庫の設置について検討する。

③ 大学内においては中央図書館と部局図書館、大学外に関しては国立国会図書館を含めた複数の大学図書館の間で、紙媒体の重複保存を抑制するシェアード・プリントの導入

出典：[学修環境充実のための学術情報基盤の整備について\(審議まとめ\)](#) 2013. p.6

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

14

## 導入に当たって留意すべき事項 (1)

- 冊子体資料の遡及電子化
- コレクションの共同保存・利用の考え方を理解する
- 単なる冊子体資料の除却手段と考えない
- 資料の消失を防ぐ危機管理の原則に立脚した保存資料の選択を行う
- ゆるやかな冊子体資料の重複が望ましい

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

15

## 導入に当たって留意すべき事項 (2)

- 図書館コンソーシアムの新たな事業であると捉える
- 参加機関の信頼関係を構築する
- 蔵書構成に関するデータを収集する
- 電子資料の利用や共同コレクションの利用についての利用者の姿勢を理解する
- 費用負担
- 所有権の移管

2014/4/22

コアスタッフ勉強会after連絡会

16